

VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会 令和 4 年度総会議事録

1. 日時：令和 5 年 1 月 9 日（金）12:10～13:00
2. 会場：立命館大学 びわこ・くさつキャンパス フォレストハウス 2 階 F205（日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム E 会場）
3. 参加人数：出席者 63 名（委任状 29 通を含む）で総会は成立（会員数 418）
4. 議事・報告
 - ① 虻川匡司会長（東北大学）より年頭の挨拶がなされた。2022 年 6 月に逝去された辛先生への感謝と、NanoTERASU の利用に関して議論が必要である旨が述べられた。また、会員数が微減していることに関連してホームページの拡充などで対応する方針が示された。
 - i) 会員数の微減に加えて、賛助会員企業も 1 社減ったことは問題であるとの発言があった。
 - ② 宮脇淳編集委員長（量子科学技術研究開発機構）より、ニュースレターについて報告があった。2022 年 10 月に臨時号が発行され、小谷先生による辛先生の追悼記事が掲載された。
 - ③ 山本達令和 3 年度会計委員長（東北大学）より令和 3 年度の会計報告があり、承認された。また、奥田太一令和 4 年度会計委員長（広島大学）より令和 4 年度の会計中間報告があった。
 - i) 木下豊彦幹事（高輝度光科学研究センター）から、コロナ禍の影響で対面の研究会を企画できず、予算残高が増え続けている件について指摘があった。
 - ④ 虻川匡司会長より令和 4 年度活動報告がなされた。今年度から VSX 懇談会あり方 WG が立ち上がった件について言及があった。
 - ⑤ 原田慈久教授（東京大学物性研究所）より、NanoTerasu に関するタイムスケジュールについて報告がなされた。

- i) 2022 年度：2022A 期にて SPring-8 BL07LSU の共同利用停止、2022 年 8 月にアンジュレータ 2 台を取り外し、11 月に NanoTerasu に移送。2022 年 11 月に仙台分室が開室、2023 年 3 月にエンドステーションを NanoTerasu に移送。
 - ii) 2023 年度：NanoTerasu BL07U・BL08U における立ち上げ作業、5～6 月に新しい機構のキックオフミーティング、冬に NanoTerasu ファーストビーム。
 - iii) 2024 年度：4 月からコアリション枠の利用開始（予定）
 - iv) 2026 年度：4 月から共用枠の利用開始（予定；シフト配分割合などは今後調整）
- ⑥ 堀場弘司幹事（量子科学技術研究開発機構）より VSX 懇談会あり方 WG の報告があった。
- i) 放射光に限らず、幅広いメンバーでワーキンググループを構成した。
 - ii) 2022 年 12 月に第 1 回 WG を開催し、VSX 懇談会の今後のあり方を議論した。施設や光源の種類（放射光・XFEL・レーザー）にとらわれず、VUV・SX の波長領域におけるサイエンス全体を議論する場として VSX 懇談会を再定義すべきであるという方針で一致した。また、事務局の体制や会則に関して見直しが必要であることが確認された。
- ⑦ その他、総合討論で質疑がなされた。
- i) 木下豊彦幹事より、今後の研究会としての具体的な活動内容を議論すべきだと提起があった。
 1. 原田慈久教授から、VSX の従来の機能（装置開発に対してユーザー側から提言をする場）を維持してほしいとの要望があった。
 2. 松田巖教授（東京大学物性研究所）より、サイエンス全体からの軟 X 線領域に対する期待が高まっており懇談会の重要性は増しているという見解と、データサイエンスについても議論できる場になってほしいという要望が述べられた。
 3. 虻川匡司会長より、賛助会員企業とも相談しながら活動内容について決定していくという方針が示された。
 4. 内海渉センター長（量子科学技術研究開発機構）より、NanoTerasu の 3 本の軟 X 線ビームラインの展開についても議論をする場になってほしいとの要望があった。
 5. 松井文彦教授（分子科学研究所）より、施設横断的にユーザー目線で提言を行えるコミュニティとしての機能を強調するコメントがあった。

- ii) ホームページに関連して虻川匡司会長から以下のコメントがあった。
 - 1. 現状、VSX ホームページを見てもどうしたら入会できるのかわからないので、入会・退会に関する案内をホームページに載せたい。
 - 2. 各賛助会員企業のことをもっとアピールできるようなホームページにしたい。

- iii) 会則の変更案について会員からメールで意見を収集することとした。

以上